



NPO法人リエラ
〒877-0044 大分県日田市隈2丁目1-9
電話(代表)080-8582-5914
電話(移住専用)090-1452-4110
電話(能登町支援)080-6421-0142
メール info@re-area.org

NPO法人リエラ
**2025年度
事業報告書**



Rearea
2025
annual report

数字で見るリエラの活動

寄付者数

110名

令和6年能登半島地震……71名

令和7年8月豪雨………2名

佐賀関大規模火災………37名

寄付金額

令和6年能登半島地震……1,771,074円

令和7年8月豪雨………310,000円

佐賀関大規模火災………3,487,787円



体験型防災プログラム



避難所運営コーディネーター研修

講演会回数

53回



大明地区体験ツアー



日田市への移住定住支援

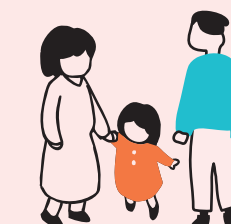
移住相談件数

386件



移住世帯数

15世帯



空き家バンク成約数

27件



移住者交流会



災害支援 令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨支援活動



子どもの居場所づくり支援

震災のストレスや遊び場の減少もあり、お泊まり会や誕生日会などイベント企画等も行い、継続した居場所づくりを実施しています。やりたいことをしたり、友達と遊ぶだけでなく、食事作りや掃除などもみんなで行っています。



来所人数
延べ1,571人
(2025年度)



能登っ子おおいた交流ツアー

能登の子どもたちから「大分に行ってみよう」という声があり、2025年7月21日～25日まで、能登の子どもたちが、大分県にくるツアーを実施しました。
中津市、別府市、臼杵市、大分市、日田市を巡り、震災

後にご支援いただいた方などに大分県のことを教えてもらい、子どもたちからは能登町のことを紹介しました。初めての飛行機、初めての九州、初めての川遊びなど、たくさんのことを経験することができました。



ツアーの報告書は
QRコードから
ご覧ください。



「能登半島地震住民主体のやりたいこと応援助成金」の支給

震災からの時間経過とともに、能登町の住民主体の取り組みが再開されています。これまで当法人でお預かりした寄付金をもとに、独自の助成制度を作り、

地元団体の活動に対して助成金を支給しました。震災後に新しく始めるものや震災前に行っていたことの復活など、様々な取り組みが実施されました。

支給件数:26件 支給総額:1,253,248円

事業内容:子どもお祭りはっぴの制作、集落の新たな名所づくり、子ども食堂の実施など



みなし仮設住宅への支援活動

みなし仮設住宅入居者への支援は、物資支援から生活再建への相談対応へと変わっています。電話でのヒアリングや訪問等を行う中で、地元から離れて生活しているため、支援制度や地元の復興状況を把握できていない方がいたため、自宅再建や引越しに関する行政支援の照会、復興公営住宅の建設時期の案内などを行いました。



相談
対応件数
164件

災害支援

ひた復興まちづくり活動応援助成金

令和2年7月豪雨から5年が経過しましたが、河川改修計画による立退きなどによるまちづくりが課題になっています。リエアでは、復興に向けたまちづくりを支援するために、助成金を以下2団体に支給しました。

一般社団法人あまみら

事業名：あまがせPRキッチンカー
事業内容：キッチンカーの導入と
天ヶ瀬温泉内外のイベントへの出店
助成金額：1,000,000円



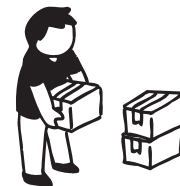
吊り橋マルシェ実行委員会

事業名：吊り橋マルシェ
事業内容：事業内容：天ヶ瀬温泉街での、地域の特産品のPRや来訪者との交流を行う
マルシェ開催のための資機材の購入
助成金額：694,850円



令和7年8月豪雨

九州南部を中心に8月に豪雨災害が発生し、リエアでは各市町村社協と協力しながら、ボランティアセンター運営の応援、ニーズ調査、資機材貸与を行いました。
現地ではボランティア不足となっていたため、ボランティアバスの運行も行いました。



資機材貸与先社会福祉協議会：福岡県福津市、熊本県上天草市、玉東町、熊本市
資機材貸与个数：314個
ボランティアセンター運営支援：熊本県上天草市、八代市
ボランティアバス運行日数：5日
ボランティアバス延べ参加人数：58名



大分市佐賀関大規模火災

11月18日に発生した本災害では、大分県避難所運営コーディネーターの方々とともに避難所運営支援を行いました。避難されている方へ炊き出し支援の申し出が多く、炊き出しの調整と献立表の作成を担当しました。



避難所開設日数：39日
避難者（最大）：121世帯180名
炊き出し調整食数：5,637食

避難所で「温かいコーヒーを飲みたい」という声があり、コーヒーメーカーを設置すると、避難所に自然と人の輪ができました。被災地のコーヒーは決して贅沢ではなく、慌ただしい避難所だからこそ、ほっと一息つける環境整備が必要です。



防災活動支援

避難所運営体制強化事業（避難所運営コーディネーター研修） 委託：大分県

大規模災害発生時に、住民主体の避難所運営をサポートする避難所運営コーディネーターを養成するため大分県内各市町村から最大4人、合計29名が参加しました。2日間の研修で、避難者への声の掛け方、

避難所の気にするべき環境のポイント、他支援機関との連携などの研修を行いました。養成されたコーディネーターは、佐賀関大規模火災の避難所にも派遣され支援活動を行いました。



避難生活環境改善推進事業 補助：大分県

能登半島地震の支援の際、炊き出しの衛生環境を課題に感じていました。大分県からの補助を受け、キッチンカー「まんたん号」を導入しました。温かい食事はもちろん、スターリンクを活用したWi-Fi、ソーラーパネルと蓄電池を活用した屋外コンセントによる給電機能のある多機能車で、大分県内で災害があった際には県の要請により食事提供等を行います。



体験型防災プログラム 委託：日田市

今年度は日田市内5団体を対象に、避難所運営訓練や非常食体験、ダンボールベッド作成体験など、各自治会のニーズに合わせた防災プログラムを実施しました。なかでも誠和町自治会では、住民参加型の避難訓練を

行いたいと相談を受けて取り組みました。自治会の初企画ということもあり、参加者数を心配しましたが、当日は180名もの参加があり、家族連れの参加者や防災に関心ある人も多く、充実したプログラムになりました。



令和7年度タイムライン研修 委託：大分県

自主防災組織や防災士を対象に、今年度は県内で8回、タイムラインの普及につながる研修会を行いました。大分県中小企業団体中央会の協力で初めて事業者を対象とした研修会を日田市と宇佐市で開催

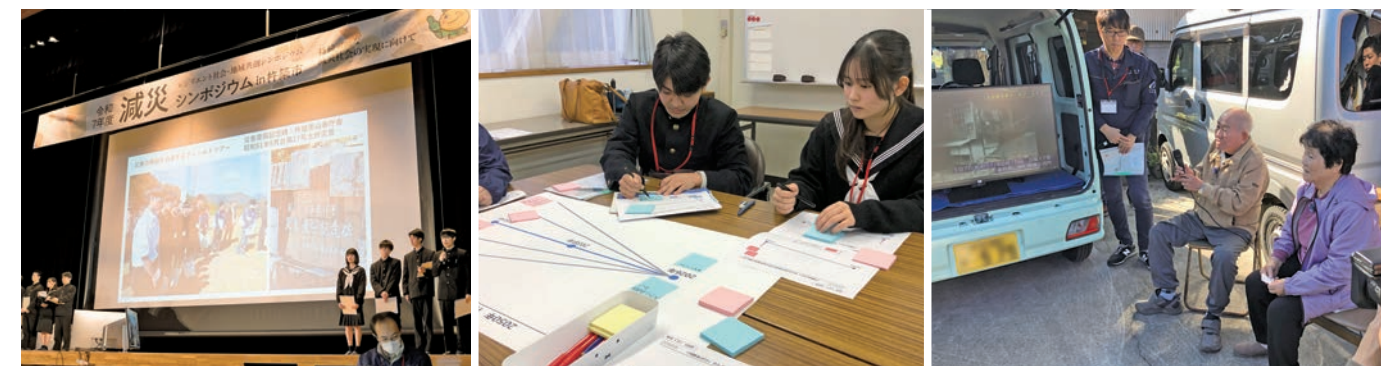
することができました。また、宇佐市役所職員を対象とした研修会では、業務継続計画に基づく実効性のある災害対応業務に取り組むことを目的に、BCPの観点からのタイムラインを考えました。



減災シンポジウムin杵築 委託：大分大学

今年度の減災シンポジウムは杵築市での開催でした。大分大学学生CERDと大分県立杵築高等学校の学生が過去に杵築市で起きた災害現場を訪問するフィールドツアー

を行い、語り部の方などから当時の様子を振り返りながら学びました。減災シンポジウムでは、学生が2050年の杵築市の減災社会に向けた若者からの提言を発表しました。



講演会

様々な団体から要望をいただき防災講演会を開催しました。中津市の豊寿園では、福祉避難所・BCP合同訓練を開催し、他の福祉施設から要配慮者を実際に豊寿園に受け入れる避難訓練を行いました。





移住支え合い事業・空き家バンク事業 委託：日田市

空き家バンクの調査や移住希望者への案内、移住者交流会等、移住前後のフォローを継続しています。中でも移住者交流会は5回開催して、のべ121名の参加者でいずれも大盛況でした。近年では移住者交流会を告知するとすぐに申込みが入るようになり、特に女子会は数日で定員に達したため2回目を要望する声が高く、2度目は初の平日開催を試みました。

昼にも関わらず13名の方が参加。移住者女子会の需要の高さを改めて感じさせられました。空き家バンク事業は、今年度より担当課が建築住宅課となり、物件調査は建築士と共に行うようになりました。専門的な視点を合わせたことで、より空き家バンク利用者に有効な情報を伝えることができました。

移住者運動会



移住者さんもひたんもんも誰でも忘年会



移住女子会



大明地区体験ツアー 委託：日田市

2023年度より3カ年の計画で大明地区体験ツアー開催委託事業を受託し、今年度が3年目でした。初年度はまずは大明地区を知ってもらう。そして最終年の今年度は「移住×防災」と題し、地元住民7名に協力いただき大明地区での水害の話や、その中で生きるための防災体験を行いました。参加者は東京や福岡から4名集まり中身の濃い半日となりました。3年を通し「水害の街から自然と共生する街」と印象が変わったという声が多く聞かれました。

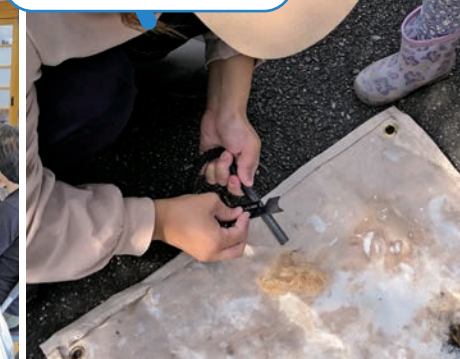
農業体験



大鶴防災士の防災講演



火起こし体験



羽釜ご飯体験



祇園会館・隈町散策・懇親会



「転職なき移住」モニターツアー

大分県の移住事業である「転職なき移住」モニターツアーを10月21日から3泊4日で実施しました。東京・愛知・静岡・宮崎から4名の経営者が参加し、「水と生きるまち～人を呼び込むためにあなたの会社ができることは？」というテーマで最終日に各自プレゼン発表をしていただきました。

天ヶ瀬温泉街災害復興視察



プレゼン発表



活動関係者へのインタビュー

令和7年佐賀関大規模火災 佐賀関地区住民・関ボックス 渡辺 忠孝さん

渡辺さんは避難所でリエラのコーヒーマーカーを活用して避難所の方々にコーヒーを提供してくれました。そのつながりから、避難所が閉鎖した今も、被災地区の公民館でカフェ「関ボックス」を運営されています。渡辺さんに、今の佐賀関や関ボックスについてお伺いしました。

Q: 火災直後の避難所の様子はいかがでしたか？

渡辺: 凄まじい被害に全員が言葉を失い、重苦しい静寂が続いていました。誰もが正解を見つけられず、不安で泣き続ける方も多かったです。

Q: 変化のきっかけは何だったのでしょうか。

渡辺: 支援団体との交流で心境を吐露できたことです。特にリエラさんのコーヒーマーカー設置が大きく、そこで声をかけられ「パリスタ」という役割を見つけたことで前を向けました。

Q: 現在の佐賀関と、今後のリエラに期待することを教えてください。

渡辺: 今は公民館でカフェ「関ボックス」を運営し、交流の場を作っています。11月の振り返りイベントに向け、ぜひキッチンカーなどでまた力を貸してほしいです。いただいた恩を忘れず、皆さんが来るのを待っています。



令和6年能登半島地震「久田村づくりの会」 諸井 珠江さん

能登町の山中の集落、久田地区。高齢化率も高いその地区で、「能登半島地震住民主体のやりたいこと助成金」を活用して、村の名所づくりや関係人口づくりの活動をされている、「久田村づくりの会」諸井さんにお伺いしました。

Q: 久田村づくりの会の皆さんの活動は活発ですね。

諸井: 実は始動は震災から1年後です。外の人からの「村を元気にしよう」という声が、内側にいた私たちの背中を押してくれました。

Q: その中で、リエラの助成金はどのような力になりましたか。

諸井: アイデアはあっても資金がなければ形にできません。リエラさんの助成金があったからこそ、看板や名所作りという「具体的な一歩」を踏み出すことができました。目標に向かう過程で笑顔が生まれる、それが「生きがい」になるんです。

Q: 諸井さんにとって「復興」はなんですか？

諸井: 私は、「復旧」と「復興」は違うと思います。地震の経験を生かしてプラスアルファの価値を作るのが「復興」じゃないかなって。その意味では、「次の災害に備える」ことも復興だと思います。

Q: 最後に、これからリエラに期待することを、ぜひお聞かせください。

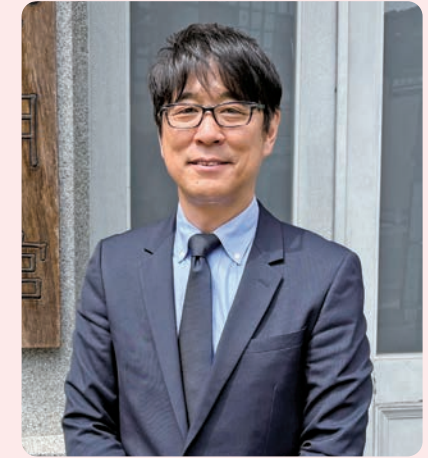
諸井: 学生など多様な人がふらっと訪れるような「繋がり」を広報で支えてほしいです。いっぱい人を連れてきてください！



大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター長 教授 鶴成 悦久さん

毎年お手伝いさせていただいている、大分大学減災シンポジウム。県内各地で開催される地元の学生さんと一緒に、災害の歴史を学んだり、減災社会への提案を行っています。減災シンポジウムを作り上げている、鶴成先生にお話をお伺いしました。

大分大学CERDでは、実践的で持続可能な減災社会の実現をめざし、各地で「減災シンポジウム」を開催しています。この取組は、平成29年7月九州北部豪雨で被災した日田市から始まり、中津市、宇佐市、豊後高田市、姫島村（減災座談会）、国東市、杵築市へと、まるで減災のバトンリレーのように大分県内へ広がってきました。令和8年度の開催地は日出町です。NPO法人リエラとは、日田市での活動以来、フィールドツアーやワークショップ、シンポジウムの開催などをともに進める“頼れる相棒”です。フィールドツアーでは、高校生や大学生が地域を巡り、語り部の方のお話や災害伝承碑から学んでいます。その姿には、真剣さの中にもどこか温かな雰囲気があります。災害の教訓は、難しく語るだけでなく、現地を見て、人と人とのつながりの中で伝えていくことも大切です。これからもリエラとともに、各地へ減災社会の輪を広げてまいります。



日田市誠和町 石川 洋介さん

2025年度に「体験型防災プログラム」を通じて地域で初めて避難訓練を行った日田市誠和町の石川さんにお話をお伺いしました。

リエラ: 誠和町では日ごろどんな防災活動をしていたのですか。

石川: 図上訓練や要配慮者の確認は行っていましたが、避難訓練などの実際に動いてみる活動はほぼ行っていませんでした。近年の災害の頻発を通じて、自主防災組織や自治会だけでなく、住民のみなさんと一緒に活動し啓発する必要があると思っていました。

リエラ: 今回の避難訓練が初めてとの事ですが、多くの方が参加されていたのが印象的でした。

石川: 参加者は合計181名で、予想以上の参加をしていただいたので良かったです。

リエラ: リエラのサポートはいかがでしたか。

石川: 心強かったです。ゲームやこれまでの災害の報告などを絡め、聞くだけではなく講演をしていただき、住民のみなさんも災害、避難ということに実感がわいたと思います。

リエラ: 今回の課題やこれから行いたい防災に関する取り組みはありますか。

石川: 参加者数は多かったのですが、お年寄りや障がい者などの要配慮者の方の参加が少なかったのが課題です。これからは「共助」を強くするためにも全員が参加できる訓練を行いたいです。



活動関係者へのインタビュー

令和6年5月、由布市から日田市へ移住した 小林 茂夫さん

移住者交流会などのイベントにも積極的に参加していただいている小林さんに、日田での暮らしやリエラについてお伺いしました。

Q: 日田へご夫婦で移住してもうすぐ2年ですね。移住して困ったことなどはないですか？

小林: 全然ない! うちのも(奥様)言ってるけど、移住してきて本当に良かったと思ってるよ。

Q: 日田の暑さは？

小林: あ! 去年の夏の暑さは本当にきつかった!!

Q: 小林さんとのご縁は空き家バンクの物件のご案内から始まりましたが、リエラに対してもっとこうして欲しかったなどありませんか？

小林: 本当になかった。逆に1年で10件ほど見せてもらったので迷惑がられてないかな? と思った(笑)

Q: 迷惑なんてとんでもありません! イベントによくお声掛けしていますが嫌じゃないかな? と思ってました。

小林: 嫌だったら断るから(笑) 移住者交流会などは本当に大切だと思う。イベントで知り合った人達がよく遊びに来てくれるし、この前も近くを通ったからって子ども連れて遊びに来てくれたよ!



先輩移住者 麻生 文子さん

2025年度の移住女子会では、先輩移住者として麻生さんに日田での暮らしや移住体験をお話いただきました。麻生さんに移住女子会や移住後の生活についてお伺いしました。

Q: 2019年に初めて移住女子会に参加され、自己紹介の時に「友達がいません。」と言ったと伺いました。現在はいろいろと積極的に取り組まれているので先日移住女子会スピーカーにお願いしました。いかがでしたか？

麻生: お話をいただいた時は「なぜ私?」と驚きました。でも経緯を聞いて、参加者の方にとにかく「楽しい」が伝わったらと思う話をさせていただきました。日田っていい意味で狭いから、友達が1人出来たら次から次へと繋がっていくし、夢だったデザイナーの仕事も移住したことで実現できました。

Q: リエラにもっとこうして欲しいなどありませんか？

麻生: 今の活動が続いていたら... と思います!

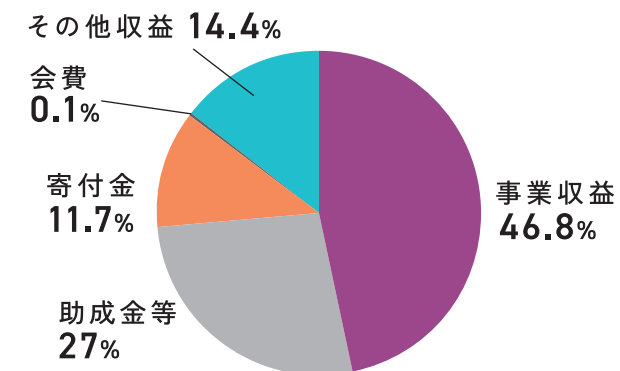
Q: 次年度の女子会は移住者の方達と一緒に企画をたててやりたいと思いますが、また声をかけさせてもらっていいですか？

麻生: わぁ面白そうですね! ぜひ!

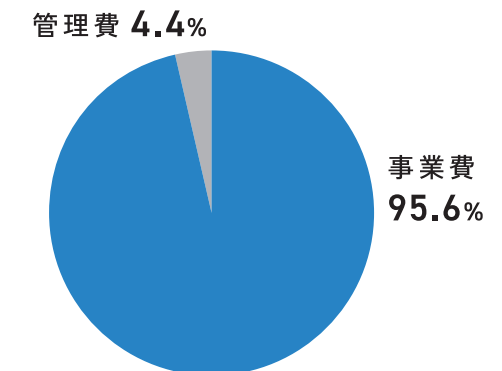


活動費・助成

収支報告



収入総額	47,997,723円
内訳	
事業収益	22,455,131円
助成金等	12,940,000円
寄付金	5,624,361円
会費	50,000円
その他収益	6,928,231円



支出総額	40,770,119円
内訳	
事業費	38,980,399円
管理費	1,789,720円
次期繰越	32,891,344円

活動助成団体

公益財団法人 日本財団

○令和6年能登半島地震・奥能登豪雨に関わる支援活動

○令和7年8月豪雨災害に関わる支援活動



2025年度寄付者一覧(順不同・敬称略)

2025年度も多くの方からご寄付をいただきました。現地で活動し続けられるのはご支援いただいた皆様のお力添えあつてのことです。ご支援に感謝申し上げます。掲載可否の確認が取れていない方は未掲載となっておりますので、お気づきの点がありましたらお手数をおかけしますが、事務局までご連絡いただけますと幸いです。

「能登半島地震」 チーム生駒、TOVS、おおさかバルコープ、すずめの学校、本谷り、麻生小児科、米田光太郎、石田貴子、石田和大、谷脇美里、阿部容子、菅宣子、長野誠治、那須美雪、大島郁夫、五十嵐正彦、安部まゆみ、土師道治、在永順也、小林カツ子、大塚光、石橋英子、塩井美知子、岡部隆、川井田孝信、川野静子、首藤福代、奥野佳代、吉田克也、宮脇勝彦、三浦博子、権藤恭子、山崎幸夫、太田静子、千代八重子、長野浩、甲斐美津子、吉田フジ子、菅原トモ子、松尾育子、森美奈子、梅木至子、宮野晃一、甲斐紀子、風口千晶、北山雅敏、大島勢津子、片桐直英、秦一夫、松本学、小川敏、堤幸子、豊田満利子、猪俣佳津子、堀田真二、平山久司、平川弘、今村富子、倉岡博美、湯本直子、出津野浩美、瀬田忠尚、加藤唯義、浅野努、空閑正義、後藤尚子、明西寺 原淳亮、AZUKI

「熊本豪雨」 米田光太郎、真如苑

「佐賀関火災」 本谷り、石井まこと、米田光太郎、真如苑、ピースウィンズジャパン、おおさかバルコープ、船場ひさお、NPO法人有明支縁会、野村紀子、相良修平、宇和島市子ども食堂連絡協議会、坂本竜一、奥野佳代、佐藤美穂、松田伸一、シンカプルを通して寄付をしていただいた皆様

「一般寄付」 筑後川コミュニティ財団 庄田清人、小野小学校タイムカプセル委員会、福岡被災地前進支援 吉田敦